

## (7) 避難所運営ゲーム (HUG)

様々な事情を抱えた避難者を適切に配置できるか、また避難所で起こる様々な出来事にどう対応していくかを模擬体験し、避難所運営について考えるきっかけ作りとするために、避難所運営ゲーム (HUG) を実施した。

### 【中学校編】

(ア) 実施日時

11月13日(火) 13:15~15:00

(イ) 参加者：一色中学校1年生 生徒194名、1年担当教員(中核教員2名含)

進行/サポート：危機管理課職員2名

(ウ) 活動内容

HUGについては、本来6、7人のグループで行うことが推奨されているが、生徒数の関係上、1グループ2班(各6人程度)で16グループを編成し、同一グループ内で2つの班が交互にゲームを実施する方法で行った。

〔 一方の班がゲームを進めている間、もう一方の班は待機  
10分ごとに進行役から合図を出し、合図が出る度に班を入れ替えてゲームを実施 〕



1グループ2班で16グループ編成

### 避難所運営ゲーム (HUG) とは？

- 静岡県が開発
- 避難者の年齢、性別、国籍やそれぞれが抱える事情が書かれた**カード**を、避難所に見立てた平面図にどれだけ適切に配置できるか、また避難所で起こる様々な出来事にどう対応していくかを**模擬体験**するゲーム
- H i n a n z y o (避難所) U n e i (運営) G a m e (ゲーム)  
※HUGには「抱きしめる」という意味も！

まず、本番前の作戦タイム・練習の時間は、グループ内全員でカードの配置を考える場とした。はじめに体育館内に「通路」を確保するように指示を出すと、各グループがそれぞれ特徴のある通路を描いていった。「通路の幅が広すぎると、その分、避難者が入れなくなる」といった声も聞かれた。

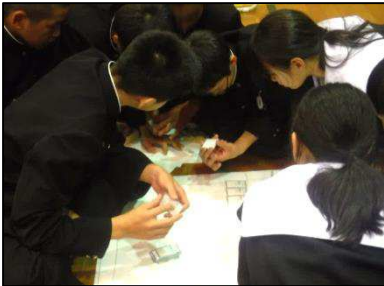
本番に入ると、最初は戸惑っていた生徒たちも徐々に慣れ始め、お互いに意見を交わし合いながら、避難者に見立てたカードを次々に配置していった。ゲームを進める中で、珍しい配置をしているグループや、各教室を間取図と同様に並べて配置場所を考えているグループなど、他のグループが参考になりそうな考え方や方法をとっているグループがあれば、その都度紹介していった。

ゲーム終了後には「障害がある方をどこの部屋に入れるか悩んだ」「家族を亡くし一人で避難してきた子に、誰がどんな対応をすべきか分からない」「ペットと一緒に避難してくる方が多くて困った」などの感想が聞かれ、それぞれのグループが臨場感をもってゲームを進めることができた。



全体の場で感想を発表する生徒

災害時の避難所運営の主体は自主防災会となるが、ゲームを通して、中学生という立場から、避難所運営の大変さや難しさを実感することができた。また、様々な事情を抱えた方が避難してくることを踏まえ、いざという時は他の人にも気を配れるようにしたいという思いをもつ生徒もいた。



お互いに意見を交わし合いながらカードを配置していく生徒たち

#### 【生徒の振り返り】

- ・次々にカードが配られて、さばき切れませんでした。実際に避難所運営をする時は、もっと多くの避難者が一気に来るだけでなく、様々なトラブルや必要なものも出てくると思うので、本当に大変だと思いました。ゲームは楽しめたけれど、大変さも分かるよいゲームでした。
- ・地震が起これば、みんな逃げることに必死になると思います。でも、みんなが満足する場所に入ることにはできないので、運営をする人の指示に従って、すばやく行動することも大切だと思いました。
- ・避難所を運営する人はとても大変だと思いました。だからこそ、本当に地震が起きてしまった時には、中学生としてできることを手助けしたいと思いました。
- ・実際に自分たちが運営することはないけど、これまで学んだ防災グッズを作ったり、けが人に食料を配ったりすることはできるから、中学生でも絶対に周りの役に立てることはあると思います。

#### 【小学校編】

(ア) 実施日時

11月27日(火) 13:40～15:40

(イ) 参加者：一色南部小学校5年生 児童37名(※6グループ編成で実施)

進行/サポート：危機管理課職員2名

(ウ) 活動内容

HUGは小学5年生にとってはやや難しい内容であるため、カードの読み上げ方や配置の仕方など、最初は進行の指示のもとでゲームを進めていくようにした。その後、児童たちがある程度理解したところで、各グループに任せてゲームを進めていった。

ゲーム中は、「この避難者に一部屋を使わせるのはもったいないよ!」「トイレを使用禁止にしている場合、トイレを使いたい人はどうしたらいいの?」など、各グループで様々な意見や疑問が飛び交っていた。



真剣に配置場所を考える児童

#### 【児童の振り返り】

- ・とても盛り上がり楽しいゲームでした。でも、災害時は、カードに書いてあるよりもっと大変なことがあるかもしれないので、自分から動かないといけないと思いました。
- ・どこに入ってもらおうか難しかったけど、みんなで相談して考えることができました。災害時の避難所の様子が想像でき、その時が来たら、みんなで協力できるようにしたいと思いました。

## 【小中合同編】

### (ア) 実施日時／場所

12月4日(火) 13:40～15:40 / 一色南部小学校

### (イ) 参加者：一色南部小学校5年生 児童37名、一色中学校1年生 生徒37名

実践委員14名(中核教員5名)、その他(町内会長、自主防災会役員等)9名

進行／サポート：危機管理課職員5名

### (ウ) 活動内容

1グループ6、7人(小中学生の中に町内会長や自主防災会役員、実践委員等を配置)の14グループ編成とし、各グループのリーダー(カード読み上げ係)については、あらかじめゲーム経験のある中学生に依頼しておいた。また、実際にゲームで使用する体育館や敷地配置図、校舎内の間取図については、参加者がよりリアルに考えられるように一色南部小学校バージョンで実施した。

#### ※補足説明

- ・一色南部小学校は津波浸水想定区域内に位置しているため、津波が発生した場合、一時待避所にはなるが、避難所にはならない。
  - ・津波の危険性がなければ、一色南部小学校は避難所となるため、多くの避難者が避難してくることが想定されるが、避難所は自主防災会を中心に、自分たちで運営していかなければならない。
- ⇒ 今回は津波の危険性がない場合を想定してゲームを実施する。

ゲーム本番では、中学生が積極的に意見を出しながら避難者に見立てたカードを配置していく姿が印象的であった。また、やや遠慮していた小学生に対して、中学生や参加者から声をかける姿も見られ、ゲームが進むにつれて、どのグループも和やかに、そして活発に意見を出せる雰囲気になっていった。さらに、児童・生徒が対応に迷う場面では、大人の参加者からの適切なアドバイスもあり、ゲーム経験のある児童・生徒にとっても新たな気付きや学びがあった。

今回のように大人と一緒に実施したことで、児童・生徒だけでなく、参加者のそれぞれの立場や目線からの考えを共有することができ、避難所運営の課題などをよりリアルに考えることができた。そして、何よりも地域・学校・行政が顔を合わせて、防災について共に考えることができる機会とすることができた。

最後に、参加者には「避難所の運営仕方に正解はないが、避難者が少しでも快適に過ごせるような工夫が必要である。そのためにも、日頃から地域のつながりを大切にし、今回のように地域と、避難所となる学校、そして行政が顔の見える関係を築き、一緒に活動する場を設定していくことが必要である」ことを伝えた。また、今年度予定していた防災活動を一通り終えた児童・生徒に対しては、「これまでの防災学習を振り返り、学んだことや体験したことを、これからの自分や家族、そして、地域を守るための防災に生かして行ってほしい」と伝えた。



児童生徒にアドバイスをする参加者



児童生徒と一緒に考える中核教員



堂々と自分の考えを発表する生徒

#### 【児童・生徒の振り返り】

- はじめは気を遣ったけれど、中学生が声をかけてくれたので、楽しくできました。前回とは違う意見も出てきて、こういう考え方もあるんだなと思いました。また、図面が南部小学校だったので、中学生や大人の人に、教室の状況などを教えてあげることができました。(小学生)
- 小学生や大人と一緒にだったので、意見が食い違うこともありましたが、いろんな発見もあり、前回よりも深く考えて配置することができました。(中学生)
- 前回やった時に困ったことを頭に入れながら、配置を考えることができました。また、地区ごとに分けることで、少しでも話しやすい環境を作りました。小学生や地域の方と交流することができ、こういう機会が増えると、もっといろいろな人を知ってもらえると思いました。(中学生)

#### 【中核教員の振り返り】

- 小中学生が進んで取り組んでいたことは、すごく安心しました。小中学生でも、地域の人と共に災害時に活動できることがよく分かりました。自校でもぜひ取り組んでみたいのです。
- 様々な事情を抱えた人たちがいることを理解し、他者を思いやることが大切になります。避難所運営をスムーズに行うためにも、もっと地域の現状を知っておく必要があると感じました。

#### 【参加者の振り返り】

- 実際に避難所を運営する方々の大変さがよく分かりました。平時にこういった体験をしておくことで、災害時に避難所の仕組み・運営にも理解や協力が得られると思います。
- 参加した小中学生は、貴重な防災戦力となるため、機会があるごとに防災教育を実施することにより、地域防災力の強化につながるものと思います。

